

中学3年生 総合的な学習の時間 指導案

奈良教育大学附属中学校

山本 達也

1 単元名 「大和野菜と私たちの生活～水俣での修学旅行を終えて～」

2 単元の目標

○大和野菜が育てられてきた歴史を学び、地域をどのように支えているのかを知る。

(知識及び技能)

○人々の思いに触れ、大和野菜の魅力や、栽培の体験を観光客にアピールすることができる。

(思考力・判断力・表現力)

○大和野菜の栽培に責任を持って取り組み、野菜の成長について興味を持ち続けることができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、修学旅行で訪れる「水俣コース別学習」の1つである「無農薬の柑橘を育てるコース」での学びから、奈良県で農業をされている方との出会いの中から問いをたてることである。

大和野菜は、奈良の伝統や地域文化を表すものであり、食材としての価値だけでなく、地域活性化や持続可能な社会の構築などという側面も考えられる。次の3つの視点から学びを深めることができる。

①歴史的・文化的背景

②地域とのつながり

③探究的学び

(2) 生徒観

本学級の生徒は、第1学年の頃から、奈良めぐりや、京都フィールドワークなどで、自分たちでコース別の学習を考え、人と出会い、問いをたてるという活動を行ってきており、探究的な学習に対して意欲的である。

また、2年時には、事前学習として水俣の映画をみており、修学旅行と関連付けて学習を行うことの意義は大きい。

(3) 指導観

本単元の指導にあたって、まず、無農薬野菜をつくることの大変さや、無農薬が絶対に良いというわけではなく、それぞれの地域や人々の思いに寄り添った考えができるように、実際に野菜の栽培から始める。

次に、水俣についての知識を得たうえで、実際に水俣に行き、農家さんと関わる中で、なぜ無農薬にこだわるのかという人々の思いに触れさせたい。そして、奈良

に帰ってきて、奈良県で消費者と大和野菜をつなぐ役割をしている方の話をきく。

(4) ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

相互性…人とのつながりの中から、よりよいものを作るきっかけが生まれる。

公平性…ものごとを正しく知らなければ、人を傷つけてしまうことがある。

責任性…未来を変えるには、人任せにせず、自ら行動することが大切である。

・ 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力

大和野菜の栽培が地域の伝統文化や持続可能な社会にどう貢献するかを考える。

多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）

社会の複雑な問題を視野を広げて考え、本質を見極めることができる。

つながりを尊重する態度

つながりを大切にし、それぞれの良さを活かして行動することができる。

進んで参加する態度

自ら情報を発信することで、地域の魅力を伝えようとする。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

今も残っている問題を、他人事だと思わず、自分たちにできる行動をすることで、次の世代に残さない努力をする必要がある。

人権・文化を尊重する

偏見をなくし、物事を正しく知ろうとする態度が大切である。

・ 達成が期待される SDGs

3 すべての人に健康と福祉を

1 1 住み続けられるまちづくりを

1 4 海の豊かさを守ろう

1 6 平和と公正をすべての人に

4 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
①大和野菜が地域文化や食生活に果たしてきた役割を理解している。 ②無農薬栽培や地産地消の考え方を学び、環境とのつながりを説明できる。	①大和野菜の栽培や利用が地域社会や私たちの生活にどのように貢献するかを考え、意見を述べることができる。 ②大和野菜の魅力や意義について、適切な方法で表現し、観光客に伝えることができる。	①地域の農業や伝統文化に関心を持ち、自ら進んで情報を調べたり学んだりしている。 ②栽培活動に積極的に参加し、責任を持って取り組んでいる。 ③持続可能な社会を実現するために、大和野菜を守ることの大切さを意識し、行動に移そうとする姿勢が見られる。

5 単元の指導計画（全13時間）

学習活動	学習への支援	評価・備考
①大和三尺きゅうりの種まきを行う。(4月) ・無農薬、無肥料で育てるものと、農薬を使って育てるものを用意する。 ②水俣で農薬を使わない柑橘を栽培している団体について調べる。 ・なぜ無農薬にこだわるのだろう。 ・なぜ大変なのに続けてこられたのだろう	・修学旅行では、無農薬、無肥料栽培に挑戦している方のところへ学習しに行くことを伝える。 ・水俣病が起こった水俣だからこそ農薬を使わないという人々の思いに気付かせる。	(ウ)② (主体的) (ア)② (知・技)
③水俣病について知る ・化学工場から排出された有機水銀によって引き起こされた。 ・排水路変更により、不知火海全体に被害が拡大した。 ・チッソは原因がわかって、排水を停止することなく出し続けた。 ④水俣の人の話をきく。 ・オンラインで水俣の人とつなぎ、人々の思いをきく。	・色々な立場に立って考えさせる。 ・自分事としてとらえるような発問をする ・まだ終わっていない。伝えることが大切。	(ウ)① (主体的)
⑤生産者の人の話をきく。 ・実際に修学旅行に行き、どのよう	・事前に質問を考えさせておく。 ・なぜ無農薬にこだわるのかを考	(ア)① (知・技)

な思いで無農薬栽培を続けておられるのかをきく。 ・人に毒を盛られた者は決して人には毒を盛らないという思い。 ・先代の思いを受け継いで。 ・お客さんの思いに応えて（無肥料の果物なら食べることができる） ⑥柑橘の収穫体験、試食をする。 ・暑い中腰をかがめて虫をとらないといけない。 ・自然栽培で、草が生えているため、土が湿った状態。	えさせる。 ・今でもお客さんの意見をきき、チャレンジを続けておられることに気付かせる。 どんな思い →奈良の農家さんはどんな思いで・・・ 農家に直接より、農家を守ろうとしてるひと 消費者との間にたつひとを訪ねる	
⑦大和野菜について調べる。 ・奈良県の豊かな自然環境と長い歴史の中で育まれてきた伝統的な野菜。 ⑧大和野菜を中心に栽培、料理を提供しているお店の方の話をきく。 ・なぜ大和野菜にこだわるのか。 ・今後の展望 ⑨大和三尺きゅうりの収穫。(7月) ・無農薬、無肥料との育ち方の違いなどを感じる。 ⑩～⑫大和野菜の魅力を観光客の方に発信する方法をグループで考える。 ・インターネットで調べたり、インタビューをしたりしてまとめる。 ⑬実際に奈良公園付近で活動を行う。	大和野菜そのものについて知るだけでなく、生産者さんなど、そこにかかわる人のことを調べる。 ・水俣だからこそ無農薬にこだわっていたように、奈良県だからこそ大和野菜にこだわる気持ちを感じられるように、水俣のことと関連付けて考えさせる。 ・人を訪ねたことでうまれた問いを入れて発表するように指導する。 ポスターやチラシを配る、試食を行う、飲食店の方に協力していただくなど。	(イ)① (思判表) (ウ)① (主体的) (ウ)③ (主体的) (ウ)② (主体的) (イ)② (思判表)